

2025年度 核融合科学研究所スクーリング・ネットワーキング事業
実施報告書

Fusion Science School (FSS)					
実施責任者	所属機関・部局： 静岡大学		職名： [REDACTED]	氏名： 大矢恭久	
実施責任者連絡先	電話： [REDACTED]		E-mail： [REDACTED]		
スクールテーマ	核融合について学び・発信するフュージョンエネルギースクール事業				
開催時期	2026年1月10日—2026年1月12日				
開催期間	3日間				
開催場所	福岡県春日市 九州大学応用力学研究所				
参加人数	参加者：40人（うち、学生25人） 講師：12人 人数内訳：核融合分野1人，他分野・企業従事者等39人 ※ <u>スクール参加者リストを添付すること。</u> 氏名，所属，職種・職位・学年，メールアドレス等を含むこと。				
執行内訳 (単位：千円)	物品費	旅費	人件費・謝金	その他	合計
	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]
※ 収支報告書は，別途通知する様式にて証憑書類とともに提出すること。					
実行委員会構成（原則として3か所以上の異なる所属機関の委員で構成）					
	氏名	所属機関・部局	職名・学年	メールアドレス	
実行委員長 (実施責任者)	大矢恭久	静岡大学・理学部	[REDACTED]	[REDACTED]	
経理責任者 (実行委員長と同機関の事務職員)	竹本美紀	静岡大学・契約課	[REDACTED]	[REDACTED]	
実行委員 (人数に応じて行数を増やしてください)	濱田栄作	琉球大学・教育学部	[REDACTED]	[REDACTED]	
	小林 真	核融合科学研究所	[REDACTED]	[REDACTED]	
	大宅 諒	九州大学・総合理工学府	[REDACTED]	[REDACTED]	
	湯地敏史	宮崎大学・教育学部	[REDACTED]	[REDACTED]	
	栢野彰秀	中央大学・理工学部	[REDACTED]	[REDACTED]	
	森健一郎	北海道教育大学釧路校	[REDACTED]	[REDACTED]	

※ 次頁に続きます。

スクールの実施内容及び得られた成果等
※ スクールプログラムを別紙で添付すること。

1. 本事業によって得られた成果のうち特筆すべき事項

核融合について学ぶだけではなく、発信できる人材を育成するために、基礎知識の習得とともに、グループワークにより発信方法を提案することができた。

参加した学校教員や教育系学生からは、「授業で扱ってみたい」「教材化してみたい」「対象に合わせたアプローチが必要だと分かった」「核融合を教科の中でどう扱うか見えてきた」といったコメントが多く、「発信者としての自分」を意識した記述が特徴的であった。

専門系参加者からも、「どのように広めていくかを初めて考えた」「他班の発表から、自分も啓蒙活動をしたいと感じた」「教育現場の先生の視点を知り、自分の視野の狭さに気づいた」といった、社会・教育への発信を意識した感想が多く、本事業の目的を充分達成できた。

2. その成果が核融合分野の人材育成に果たした（果たすと期待される）事項

核融合リテラシーの向上に本プログラムが役立つことが示された。これは核融合の専門家と理科教育の専門家がコラボし、STEAM教育を組み込もうとしたことが大きかったと言える。

参加者だけではなく、参加者が発信することにより、核融合の理解を大きく促進することが期待される。

3. 今後改善すべき点について参考となる事項

このようなプログラムは、学校が休みの期間しか実施できないので、公募・採択が6月中に終わり、夏休みを活用することができるととても効果的である。

人材育成会議がリードしてオープンバッジが発行できるととても良いと思う。





備考